

## 審議内容整理表

審議部会		第1回	
整理 番号	事業名	農業競争力強化基盤整備事業(燕栗沼地区)	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	庄子委員 吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラムサール条約に基づいて特別な配慮がなされているので、その効果について評価調書に加筆いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で取り組んでいる、農薬、化学肥料を軽減する取り組みについて評価調書等に説明を追記する。</li> </ul>
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等

## 審議内容整理表

審議部会		第1回	
整理 番号	事業名	水利施設等整備事業(柴田地区)	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	庄子委員 吉田委員	・現在の事業費ベースでの進捗率が48.3%と記載されているが、令和6年度に完了するのか。	・河川協議等の対外調整、設計の見直し等に日数を要したが、令和5年度、令和6年度に数件の工事を発注し、事業完了する予定である。
2	郷古部会長	・残工事はどのような内容か。	・川幅全体をせき止めているメインゲートの補修が残っている。具体的な内容としては、ゲートを現場で引き上げて再塗装する工事や、ゴム等の部品交換等の工事となる。
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等

整理 番号	事業名	農村整備事業(柳田峠2期地区)	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	吉田委員	・便益項目中の営農に関わる走行経費節減効果については、農業の内容・作物の種類等々に依存するか。より付加価値の高い作物であれば、その時間価値が高まる仕組みとなっているか。	・御指摘の作物の時間価値が高まる仕組みについては、別の便益項目である、品質向上効果の中で、算定している。品質向上効果では、作物生産の立地条件が改良又は維持されることに伴う、生産物の品質への影響に関する効果を算定している。
2	植松委員	・宮城県全体として考えた際に、50世帯に約20億円をかけることは必要なのか。 (※事務局注：全体事業費は約10.9億円)	・既存の道路では営農上支障を来しており、本事業は中山間地域において、農業を持続していくためには必要だと考えている。
3	庄子委員	・事業の目的である、農業を維持していくために必要な効果として、再評価調書4ページに記載のある、災害発生時の代替路線(迂回路)としての有用性の部分大きいと見ているが、代替路線として期待されることに加え、どのような効果が見込まれるか等、有意義な部分を打ち出せると良いと考えるがどうか？	・御発言のとおりであるが、便益の算定項目に防災機能の項目がないため、効果の算定は困難である。
4	吉田委員	・費用便益費が確固たるものであれば、その数値に基づき、継続されるべきかを判断すべきと考える。費用便益比は1を上回っている状況なので、この事業は継続すべきと判断されると思う。	—
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等
			・今後、工事を進めるに当たっては、コスト縮減に努めること

## 審議内容整理表

審議部会		第 1 回	
整理 番号	事業名	河川事業	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	庄子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水被害が発生していることから、事業の早期完成が期待されるが、完成予定年度がだいぶ先である。早期完成に向けた取組み状況を教えていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南沢川と雉子尾川を令和 2 年度より個別補助事業化するなど、集中的に工事を進めている。引き続き早期完成に向け予算確保に取り組んでいく。</li> </ul>
2	庄子委員 吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別補助事業化について説明を追記していただきたい。</li> <li>個別補助事業化により事業が進捗するということを、県民に分かりやすく記載していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民に分かりやすい表現に調書を修正する。</li> </ul>
3	植松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>調書にコスト削減計画が記載あるが、今回評価時までのコスト縮減結果を記載すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回評価も築堤材を流用する計画だった。工事内容を精査した上で、コスト縮減結果を記載できるか検討する。</li> </ul>
4	植松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田川は前回評価からの事業費増加割合が他 2 河川と比較して大きく、2 倍となっているのはなぜか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田川は他 2 河川と比較して残事業量が多く、全体事業費の算定精度は高くなかった。今回事業費を精査し、構造物が多い等の理由で約 2 倍となっている。</li> </ul>
5	吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害被害が深刻化しているが、予算が限られる中で選択と集中が必要で、優先順位が高い所へ投資していくという県の姿勢や取組を調書に記載していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調書に記載する。</li> </ul>
6	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>南沢川と雉子尾川は便益の変化要因②の増加幅が大きいですが、要因は何か。一般資産は増加しているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般資産に大きな変化はなく、便益算定精度を上げたこと、特に浸水深が深くなったことが便益増の要因と考えている。</li> </ul>
7	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>治水リスクが高いところに堤防整備後、資産が集中することについてどのように考えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域全体で治水安全度を向上することを目的に事業を行っており、リスクが高いところに資産を誘導するつもりはない。一方、流域治水の取組としてリスクが低い土地へ資産誘導する流れとなっている。</li> </ul>
8	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>B/C だけではなく、社会状況の変化に対応していることも判断材料となるため、土地利用の変化についても示すことを今後、検討願いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、検討する。 (※事務局注：第 2 回部会で土地利用の変化状況について補足資料で説明した)</li> </ul>
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等

## 審議内容整理表

審議部会		第2回	
整理 番号	事業名	農業競争力強化基盤整備事業(蕪栗沼地区)	
	委員の質問・意見等		県の回答
1	郷古部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 評価調書9ページ、環境に配慮した稲作作りを展開しているとの記載は、作りの表現が重複しているので、稲作を展開しているか、米作りを展開しているかに訂正した方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 訂正する。</li> </ul>
2	吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 農薬の使用について、宮城県では低農薬に取り組んだ場合のインセンティブを設けているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 宮城県としては設けていないが、地域の担い手や法人がブランド米という形で販売を行っている事例がある。</li> </ul>
3	吉田委員 郷古部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 評価調書9ページ、低農薬や化学肥料の使用を低減すると書いているが、水準がわからないため、「鳥の餌となる水中生物の生息環境を維持する程度の農薬の使用を行っている」など使用している水準を記載した方がよい。</li> <li>◆ 本事業地区は世界農業遺産の大崎耕土のエリアに含まれているが、大崎耕土全体としてブランド化を進めるために、生き物調査や低農薬、低化学肥料をやっていることを補足する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 調書に記載する。</li> </ul>
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等
		継続妥当	

## 審議内容整理表

審議部会		第2回	
整理 番号	事業名	河川事業	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	福本委員 郷古部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水深について、前回評価時は45cm未満の床下浸水が主だったが、今回評価時は3mを超える区域が生じているがどういう理由か。</li> <li>確率規模に変更がなくとも、例えば降雨継続期間が変わっている等、流量への影響はないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水深の変動は算定精度の向上によるもの。前回評価時は、簡易的な算定方法を取っていた。今回評価時は氾濫場所、深さ、時間を考慮したシミュレーションを基に浸水深を算定する、より精緻な方法で行っている。</li> <li>降雨量の想定に変更はなく、流量も変わらない。</li> </ul>
2	福本委員 郷古部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年に1回とか3年に1回とかの洪水を防ぐだけでも、前回評価時と同じような被害額を防げる算定結果になっているが、実際に2年に1回、3年に1回のレベルで氾濫が発生しているのか。</li> <li>整備前は確率的に1年ごとに氾濫が発生するが、整備が進んだことによってある程度被害が防げているということによいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際は1/2、1/3の頻度で氾濫は発生していない。ただし、全く整備されていない状態で1/2、1/3雨量が降った場合を算定すると氾濫が発生する結果となっている。</li> <li>その通りである。</li> </ul>
3	福本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害額が5倍、10倍に上がっており、前回評価から数字がばらけているが、県として予測精度をどのように考えているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マニュアル等の改定等により、今後も予測の精度は上がっていくと考えられる。より確かな予測で説明すべきと考えており、今後も精度の高いシミュレーションを行い、説明していきたい。</li> </ul>
審議結果		事業継続とした県案について	附帯意見等
		継続妥当	

## 審議内容整理表

審議部会		第2回	
整理 番号	事業名	事業全般	
		委員の質問・意見等	県の回答
1	吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少に伴う様々な社会変化がある中で、B/Cの便益を算定する時に、現在の便益が何十年か続く想定をしているが、それを担保するための方針を書いていただきたい。</li> <li>ストック形成のための公共事業だと考えると、事業主体としての県の姿勢を明確にしてもいいと思う。</li> <li>上記について今ここでどうこうということではなく、こうした議論が当部会でされていることが必要だと思うので、議事録に残していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言内容について議事録に記録する。</li> </ul>
2	西出委員 郷古部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>便益の維持と地域計画との関係になると、他部局や市町村も絡んでくる話なので、当部会の中で議論する問題としては大きすぎると思うが、大事な視点ではあるので、部会としてその重要性を発信していくことはできるのではないか。</li> <li>便益のサステナビリティについて答申としてではなく、答申とは別の形で部会として出すことは過去もあったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>便益が維持されるかは県政に対する問題提起として重要な視点のため、将来にわたって便益が発揮できるような県政の進め方が重要だという助言を部会からの意見として頂くことは可能である。</li> <li>便益のサステナビリティについては過去と同様、部会長コメントとして整理する。</li> </ul>
3	福本委員 郷古部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方整備局では、国の行政計画等の背景を踏まえ事業について議論されているため、宮城県としても事業単独ではなく、行政計画全般の中で今、どういうことをしているのかを付け加えていただくことを検討いただきたい。</li> <li>上記の指摘は事業の必要性の項目に記載できると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調書を修正、加筆する。</li> </ul>